

2025年02月号

かわら版

Vol.21

なりかわ
成川まさゆき
市政報告

〒938-0014 黒部市榑木107-7
TEL&FAX (0765) 57-1189
携帯 090-1317-7155
Mail/masa.narikawa@gmail.com

黒部を未来へつなぐ

黒部宇奈月温泉駅

<ご挨拶>

皆様、こんにちは。議員として活動を始めてから10年が経ち、この間支えてくださった皆様に感謝申し上げます。そして、12月4日の黒部市議会12月定例会初日に議長に就任いたしました。これも皆様のご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。これまで「寛容なまち」「弱者が安心して暮らせるまち」「夢を実現できるまち」を目指し活動してきました。黒部市の伝統芸能や文化を守り、次世代に繋げるための活動にも力を入れてきました。これらの取り組みが実を結び、黒部市が未来に向けて輝き始めていると感じています。

また、今回から、これまでのA4見開き4ページからB4サイズ2ページに紙面をリニューアルしました。この新しい形で、皆様によりわかりやすく、親しみやすい情報をお届けします。

議長としては、市民の声をしっかり受け止め、開かれた議会運営を目指します。黒部市にはまだ無限の可能性があります。全ての市民が安心して、幸せに夢を追いかけられるよう、引き続き全力で取り組んでまいります。変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。共に未来をつくり、一步一步進んでいければと思います。

「黒部を未来へつなぐ」
黒部市議会議員 成川まさゆき



まさゆき 見聞録「学びの時間」



8月
盆踊り（今年は三島神社と
大布施公民館で限いました）

8月
鐘釣橋視察



10月
親子のリレーションシップ
in ふなはし

11月
黒部歌の祭典



12月
こども食堂あつまれくらべ



でるくい くらべ



まちのために何かしたいと考えている方、
議員になってみませんか。

11月29日（金）「黒部市民交流センターあおーよ」にて、次世代リーダーを育成する「地方議員養成講座」のキックオフミーティングを開催しました。方向性を共有し、関心のある方やスタッフ希望の方に参加を呼びかけた結果、7名の方にご参加いただきました。今後、方向性を決めて開催していきますので、皆様のご参加をお待ちしております。

成川まさゆきの情報発信



stand.fm

黒部市の今や議員活動、地域づくり活動など
日々の活動を毎日音声配信しています。



facebook

日々の活動記録を配信
しています。



twitter

主に stand.fm を配信
しています。



Instagram

たまに犬と花の写真

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!



「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

「なりかわチャンネル」
好評配信中!!

私の声を聴いてください

皆様のご意見をお気軽に
是非、お寄せください!



なりかわ 黒部を未来へつなぐ
成川まさゆき

黒部市議会議員
facebookで活動公開中!



1. 体験格差について

「体験格差」は低所得家庭の子どもが旅行や習い事を体験できない問題です。改善策として、親子で体験活動をする際に欠席扱いとしない「ラーケーション」制度が愛知県や茨城県で広がっている事から質問しました。

問 「体験」の現状とアンケート実態調査について

答 低所得家庭等には就学援助やひとり親家庭支援等の実施し、保護者の収入に関わらず体験活動ができる環境づくりを推進している。アンケートは、必要が生じれば、学校とも連携しながら検討したい。

問 地域部活動移行と体験について

答 地域クラブ活動移行により、負担増も想定されるが、経済的な事情により、参加機会が失われないよう、支援が必要な世帯に対する支援を検討したい。

問 体験を増やすためのバウチャーチケットについて

答 考えていない。必要な支援策について引き続き、教育委員会と連携しながら検討したい。

問 土休日に保護者が仕事という子どもたちの実態調査について

答 必要が生じれば、学校とも連携しながらアンケート実施を検討したい。

問 「ラーケーション」制度について

答 先行自治体の成果や課題を参考にすると共に、県や近隣市町村の動向にも注視しながら調査、研究する。



2. 若者支援について

黒部市では若い女性の転出が課題。解決には働きやすい環境づくりや地元教育に加え、若者が地域づくりに積極的に関わる仕組みが大切です。既存の活動をつなげ、若者が活躍できる場を広げて欲しいと願い質問しました。

問 若者回帰を視野に入れた支援事業について。

答 市と民間団体が連携しながら、本市のまちづくりを若者主体で考える場を設けていきたい。



3. 中小企業支援について

中小企業振興基本条例の制定検討や、市内の中小企業支援策の今後の計画について質問します。また、チャレンジショップ事業やキッチンカーの貸し出し事業を導入し、市民参加型の支援体制を強化することを提案しました。

問 現在の市内中小企業支援策と今後について

答 令和3年経済センサス活動調査によると市内事業所1,555社のほとんどが中小企業であり、市内経済発展の原動力になっている。今後も関係機関と連携を図りながら、施策の展開に取り組みたい。

問 中小企業振興基本条例制定について

答 先ずは、実施している「黒部市経済連絡会議」を活用し、施策の展開につなげていきたい。

問 チャレンジショップ事業について

答 「あおーよ」開館をチャンスと捉え、「みんなのチャレンジを応援」する意味からも、しっかりと研究したい。

問 キッチンカーの貸出事業について

答 貸出して、市内での創業にどの程度結び付き、まちづくりや賑わいづくり、本市のPRに貢献され得るのか、という観点からも研究を行っていきたい。



4. くらべ市民交流センターあおーよについて

「あおーよ」の1年間の運営について、市民の意見反映や運営体制の現状を伺い、今後世代や地域を超えた交流を促進するための未来図について質問しました。

問 現状と未来図について

答 今後、運営基盤が確立した際には、指定管理を含めた民間活力を活かした運営管理体制への移行も検討していく。未来図としては、ノウハウを持った事業者・NPO団体とも連携しながら、自分の未来、黒部市の未来を創造できる場、市民が集い学ぶ文化・交流の拠点を目標とする。

問 キッチンカーの出店について

答 今後、個別の声かけでなく、キッチンカー出店可能を広くオープンに呼びかける手法も検討実施したい。

行政視察レポート

綾瀬市でロケ誘致のまちづくりを学ぶ

2024年5月31日(金)～6月1日(土)「何もない町」が逆に強みとなり、どんなシーンにも対応できるロケ地として活用される利点があることが分かりました。都心からのアクセスの良さもロケ誘致に有利な点です。成功するロケ誘致には、行政だけでなく民間企業や市民団体の協力が不可欠で、地域活性化センターや市民の支援が推進力となります。ロケ誘致の目的は観光客の増加にとどまらず、地域の知名度向上や交流人口の拡大、市民の誇りを育むことにもつながります。ロケ誘致は地域経済に大きな影響を与え、特に「モノ消費」「コト消費」「トキ消費」を活用したPRが経済効果を生む可能性があります。実際、予算の制約を乗り越え、市民活動や支援金を活用してロケ誘致が成功した事例もあり、エキストラやケータリングなどのサポート体制も整えられました。このセミナーを通じて、地域活性化には官民協力と市民参加が重要であることを学びました。



新潟県燕市で若者が関わるまちづくりを学ぶ

2024年8月9日(金)～10日(土)若者が積極的に関わるまちづくり。木村紀彦氏の講義では、「ゆるいアプローチ」による地域活性化の重要性が強調され、結果を急がず地域との関わりを深めながら次世代リーダーを育てる必要性を感じました。また、若者主体の「まちあそび」活動を通じて、堅苦しくなく地域を楽しむことが大切であると学びました。さらに、高校生サミットアトラクションや「まちあそび体験」を通じ、地域ごとの特色を知り、地域とのつながりを深めました。特に、「つばめ若者会議」では、若者が意見を発信し、地域づくりに積極的に参加する仕組みが印象的でした。この研修を通じて、地域課題の解決に向けた参加型イベントやワークショップの重要性を実感し、今後は新しいアイデアを地域に活かしていきたいと考えています。

